

各区図書館の取組み状況(案)へのご意見まとめ

		意見	意見に対して(事務局の対応)
1	堺区	7つの区の図書館ごとに条件が大きくちがうまま、区民千人あたりの評価に違和感があります。 中央図書館としての役割と堺区の図書館としての役割や機能をもつ大仙の図書館そのものの検証が必要ではないでしょうか。	各区取組みの定量的指標については、それぞれの区で、自館の課題を考え、取組みの結果を検証するための指標であり、他区図書館と比較することを目的としているわけではありません。中央図書館としての取組みにつきましては、各区図書館の取組みのところでなく、各サービスの基本方針にかかる取組みのところでお示しいたします。
2	堺区	2、行政資料を電子図書館のコンテンツとして収集・公開する仕組みの構築……というタイトルは狭いのではないかと？ 「サービスの具体的方向」は⑦堺の歴史文化を保存し、次代に継承して活かします……といいながら、内容は行政資料の電子図書化について記述。 ところが、「評価」には、地域資料Eレファレンスや電子書籍「歴史たんけん堺」にふれるなど、タイトルよりは幅広い郷土資料について書かれていてわかりにくいです。 堺市の歴史・地域資料、歴史的に継承してきた貴重な図書の保存・電子図書化と活用と、行政資料の電子書籍化と別に記述し、ともに推進すべき課題として確認していただきたいです。	現在、堺市立図書館は中央図書館基本指針に基づいた図書館サービスを実施しています。 各区図書館の取組み状況では、昨年度の評価も踏まえ課題を明確にし、今年度の目標をたて、達成するための重点取組について検証を行っています。重点取組が中央図書館基本指針で定めたサービスの具体的方向性の何にあたるのかを示し、取組によって目標の達成に効果があったかを検証するため、方向性や評価が広がっています。 しかしながら、ご指摘いただいたように、修正した方が伝わりやすいためタイトルを修正し、従来の地域資料の電子化についても触れました。
3	堺区	p.1 今年度の目標の3について、「障害者や日本語を母語としない人へのサービスを充実させるため、図書館HPに多言語の利用案内や音声情報を掲載する」【学ぶ力】とあるが、多文化共生社会においては、多言語の情報共有は必要であり、これは【学ぶ力】に該当するののか。【学ぶ力】とするのであれば、「図書館HPに多言語の利用案内や音声情報を整備し、今後は多文化資料の収集や提供も充実させていく」などの文言をいれるべきではないかと？	文言を追加しました。多文化資料の充実や提供には数年前から力をいれていますが、今後はより多くの人に知ってもらい利用してもらえることを目的としています。
4	堺区	1の広報力を強化するにも中身が伴っていないと意味がない。図書館があることを知らない人はいない。子供の時から1度も足を運んだことのない人はほとんどおらず、その時、興味を持つ内容がなかったから来ないのでは？その後、どう変わったのか？	現在利用していない人には、図書館を利用してもらうために図書館で取り組んでいる新たな取り組みを知ってもらうことも大切だと考えており、そのためにも広報が大切だと考えています。
5	中区	2 保護者向け講座の開催 は、夏休みの企画として有意義だったでしょう。「保護者」というより、子どもに向けたやさしい表現や、Webや本の知識だけでなく、夏休みに身近な自然を親子で調べようとよびかける雰囲気があれば、さらにひろがったように思います。	保護者と子どもを対象とした講座の開催にあたっては特に目的や内容、魅力が伝わるようにポスター等での表現を工夫していきたいと考えています。

6	中区	p.9 10月に開催された課題解決支援講座「予防が大事！ストレスと介護～今から準備。家族の介護、自分の老後～」について、大変興味深いテーマであるが、参加者が19/40人(定員)と少ない印象がある。しかしながら、効果検証の②インパクトでは、「○」と記載されている。「△」ではないのか。その点を踏まえると、課題、改善提案欄では、「今、介護で悩んでいる方や健康不安を抱えている方にしっかり情報提供ができているのか。」ということが記述されるべきではないか。家族で介護をしている方は、外に出ることが出来ないため、オンライン開催などの検討も必要ではないか。	効果検証の②インパクトについて「△」に変更し、効果検証欄、評価欄、課題・改善提案等欄の文言を修正します。 当館では、包括支援センターなどとの協力事業を通じて、現在介護者でない方や子どもさんにも認知症や介護・介護予防に関心や知識をもつ機会を提供したいと考えています。今回の講座も、老後や家族介護には至っていない方に来ていただく意図でテーマや講師を設定しました。オンライン開催については必要性や実施体制などについて研究検討します。
7	中区	定員より少ない人数のイベントはどう分析・評価しているのか？定員の設定は妥当か？	「3. 中基幹型包括支援センターなどとの協力事業」の効果検証の②インパクトについて「△」に変更し、効果検証欄、評価欄、課題・改善提案等欄の文言を修正します。同事業の課題解決支援講座では老後や家族介護には至っていない方を対象にした趣旨や意図が、「2. 保護者向け講座」では「生物多様性」という講座の内容や魅力が、それぞれの対象者に十分PRできていなかったのではないかと分析・評価しています。 定員は、20人から40人であれば感染症対策を考慮すると現在の会場になります。希望があればできる限り参加いただくため最大限の定員設定をしました。
8	東区	講座の実施 課題 改善提案等 で、「市民の関心が高く、課題解決にふさわしいテーマを企画したことで大きな効果があったが、関心が低い/知られていない…」とあり、文脈がわからなかった。「市民の関心が高く、課題解決にふさわしいテーマを企画したことで大きな効果があった。関心が低い・知られていないテーマでの開催も公共施設として意義あるものである。」と書けばわかりやすいのではないか。 適切なテーマで実施され成果を残されるとともに、今後の努力方向が記されていていいなと思いました。	ご指摘のとおり修正しました。
9	東区	p13 指標に「参加者アンケートによるステップアップ満足度」とあります。実施結果の「アンケートによる満足度」、「アンケートによるステップアップ度」、そして効果検証の「課題解決度」があり、どうリンクしているのか少し分かりにくいと感じました。指標の方を「参加者アンケートによる講座満足度」と「参加者アンケートによるステップアップ度(ステップアップ度という言葉もやや分かりにくいですが)」に分けると良いのでしょうか。ちょっと整理していただければわかりやすくなると思います。	指標の文言を課題解決度(ステップアップできたかどうか)としました。
10	東区	ビジネスパーソンや学生が多く利用、また、高齢化率が市内で3番目に高いという東区の特徴にあわせて関係部局等との連携と記載がありますが、関係部局はもう少し詳しく書いた方がどのような層に焦点をあててるのかわかりやすいとおもいます。	東基幹型包括支援センターとの連携ブックフェアについて詳しく記述しました。

11	東区	p.11～12「2.関係部局との連携によるブックフェアの実施」について、連携数は増えたが、先方からの要望によるもので、図書館からの声かけは行わなかった。」とあるが、この文章は記述する必要があるのか。意図がよく伝わりませんでした。	「ビジネスパーソンをターゲットとした連携を企画」するうえでの補足として書きましたが、ご指摘どおりあまり必要性がありません。削除いたしました。
12	西区	p16 「学びと交流の広場」は始まったばかりなので、活用方法はまだ模索中の段階だと思います。利用者や連携団体の反応など、場所が出来たことによるポジティブなエピソードがあれば加えると良いと思いました。	評価に追記しました。
13	西区	ラーニングスペースを図書館関係活動及び市が主催する子育て関連事業に提供。市が主催する子育て関連事業を具体的に明記した方がよいかとおもいます。	社会福祉協議会が主催する「子ども食堂関係者会議」や雇用推進課の「いつかは働きたいママのための就活部 マミクリさかい」の事業に場所を提供するとともに図書館利用についてPRを行いました。
14	西区	実施結果の二行目 3月には堺市文庫連絡会 → 3月には堺市子ども文庫連絡会	ご指摘のとおり修正→ 3月には堺市子ども文庫連絡会
15	西区	p.17「3読書バリアフリーの観点から読書環境を改善」の中で、LLブック以外にも、DAISYや大活字本、電子書籍などその人にあった読書方法を図書館が既に提供しているわけですから、もう少し本質の部分にも触れてよいのではないかと。サインなどの変更とあったが、図書館内のピクトグラム化も検討いただきたい。	実施結果を追記しました。
16	西区	「2.医療機関、学校、地域施設と連携した事業実施、情報提供」の評価「館者数117,638人 レファレンス件数2,050件」はここに記載するのは不適切 全体的に「評価」の記述を増やして欲しい。手応えがあったのか、想定より少ないのかといったことも含めて。	来館者数について、地域施設での取組をとおして読書活動、図書館利用を促進したかの検証のため指標としました。レファレンス件数については専門家と連携した情報提供により、情報源としての図書館への信頼が増し、住民の図書館への意識が貸出だけでなく暮らしの課題解決に役立つのと認識に変化することで、レファレンス件数の増加に結び付くとの見込みで指標としました。 評価につきまして、記述を追加しました。

17	西区	「3.読書バリアフリーの観点から読書環境を改善」の施設満足度向上の意味がわからない	障害のある方も図書館を利用しやすいように当事者に来館してもらいキャプション評価の手法を用いて意見を伺い、図書館施設の環境改善を行いました。具体的には闘病記の配置換えや棚から飛び出る写真集を利用の邪魔にならないよう移動しました。結果的に写真集をブラウジングコーナー横に設置したことで大型の写真集が手に取りやすくなったことや、壁面表示より床に表示がある方が見やすいとの指摘を受けトイレの表示を改善したところ、年配の方々の視線も床にいきがちなことが判明し結果的に利用改善につながったことで、来館者アンケートにおける「館内の過ごしやすさ」を前年度より向上させることを目標としていた点に結び付け、施設満足度向上の指標としました。指標は前年度と比較した数値を追記しました。
18	南区	p.19「1.地域の知の拠点をめざした多様な資料の収集、提供」では、「大学刊行物(紀要)コーナーの設置」とある。近年、IRDBや各大学の機関リポジトリで誰でも自宅から無料で閲覧することができる。オープンアクセス化に伴い、冊子体で発行している大学も少なくなっている。この点について、紙媒体だけではなく、どのようなデータベースで検索できるのかも合わせて、提供していただきたい。	図書館と同様に地域の知の拠点である大学との連携は、今後ますます重要性が高まると考えられます。区内所在大学で刊行する紀要を区民にも身近に感じていただけるコーナーを設置する際には、ご指摘いただきました各校の機関リポジトリの情報提供についてもQRコード等による案内をはじめ、さまざまな手法を検討してまいります。
19	北区	子ども司書活動について、大変興味深い取り組みである。令和3年度の課題点では、受講修了者がその後も継続して活躍できるようにとある。成長した子どもたちが、自分たちの図書館がどうなったらいいのか、意見交換やディスカッションする機会も是非設けて欲しい。	次年度の子ども司書活動の参考とさせていただきます。
20	北区	「2.利用者が来館しなくても参加できる事業の実施」はホームページ以外にもSNSを活用しているならそれを記す方がよい。	Twitterの活用についても、追記いたしました。
21	美原区	書架の見直し 効果検証 効率性・・・排架は配架のまちがいですね	棚に何かを並べることを一般的に「配架」というのに対し、資料に分類等を施し一定のルールを決めて並べることを図書館用語で「排架」と言います。今回は、「その棚に何を置くか」「どう並べるか」も含めた書架構成の変更を行った説明の中ですので、「排架」という言葉を使用しています。
22	美原区	目標を達成しようと様々な取り組みを行ったことが分かりました。他区と比較して、新規利用者の獲得や貸出点数などの数値目標を重視しているように感じました。評価の欄に数値以外の取組みの効果などにも触れられると良いと思いました。	事業の成果や問題点を顕在化させるためにあえて定量評価をメインにしておりますが、ご意見を受けて指標に即した書き方に改め、定性評価も記載しました。今後「取組のようす」欄で取組の写真などもご報告する予定です。

23	美原区	図書館サービスの周知にはまだまだ課題がある。広報や連携による認知度向上についてもう少し詳しく明記した方がよいとおもいます。	取組内容1の「課題、改善提案等」に追記しました。
24	美原区	p.31効果の検証の①妥当性の部分で、「図書館の存在や有用性を知らない潜在的利用者に働きかけ、利用を促すことは重要である。」◎とあるが、「図書館の存在や有用性を知らない潜在的利用者に働きかけ、利用を促すことができた」など、実施したサービスについて、当初の目的からどれくらい達成したのか、変化や結果どうなったのか、その妥当性を記述した方が良いのでは？	現状では来館のきっかけや新規利用者なかりピーターなのかを伺う機会が（講座等の単発の事業以外では）なく、新型コロナウイルス感染症の感染状況等の要因も含まれるため、厳密に原因と結びついた結果を出すことは難しい状況です。 そのため来館者数、貸出点数、新規登録者数などの定量的な評価を記載していますが、目標の立て方や評価の方法について、原因と結果がわかりやすく妥当性について判断がしやすいものとするよう、今後の課題とさせていただきます。 おはなし会等の定例行事の参加者についても追記しました。
25	美原区	約3500冊の除籍と移動に2ヵ月以上かかるというのは時間をかけすぎ、と思います。利用者がその間、本がどこにあるのかわかりにくく、利便性がそこなわれている。	書架の移動に関しては年末年始の休館日に予定しておりましたが、図書館情報システム機器の入替など他の業務との兼ね合いもあり、一棚分のスペースを作るところまでしかできませんでした。利用者の多い時にはできない作業でもあり、開館前の時間などに少しずつ動かしている状況です。資料を別の場所に移しているわけではなく、移動させた資料についても書架に分類等を仮表示しておりますが、空き書架がある状態が続いておりご迷惑をお掛けして申し訳ありません。
26	全体	この意見提出用紙について「意見」と「質問」だけでなく、図書館の取組みで評価したいことなど書く欄があれば、各館で努力されていることがより明らかになり、今後活かされるのではないのでしょうか。	今回お示ししたものは令和4年12月末時点での取組結果であり、皆様のご意見を参考に修正および総括を行い、今後、令和4年度の取組結果をお示しし、評価をしていただきます。今回は皆様に評価をしていただくにあたり、分かりにくい箇所はないか、ご意見やご質問をいただきたく、このような様式といたしました。
27	全体	中央図書館の建てかえを含め、全市的な図書館サービスのあり方、施設整備の方針について、市民とともにビジョンを語り合いたい。	図書館の再整備につきまして、図書館の基本的な業務を充実することに加え、社会情勢や市民ニーズの変化に柔軟に対応する必要があります。庁内の連携はもちろんのこと、市民の皆様の意見を伺いながら再整備を進めていきたいと考えています。
28	協議会について	コロナ禍でオンラインを含めて1時間という制約で、じゅうぶん話し合えたとは思えません。対面を原則に2時間ぐらいかけて、様々な立場や専門的な知見を持つ方々の意見交流ができればと願います。	図書館再整備に向けての動きや新型コロナウイルス感染状況などの変化がある中、今後の協議会の実施について検討をしていきたいと考えています。
29	協議会について	「図書館評価」への意見に時間をかけすぎていると思います。市民のための図書館のあり方、現状への思いや提案、中央図書館建てかえや地域の図書館づくり、学校図書館のことなど、市民の願いが反映できる協議会のもち方を希望します。	

各区図書館の取組み状況(案)へのご質問まとめ

		質問	質問に対して(事務局の回答)
1	堺区	「図書館カウンター堺東の事業検証と利用促進」が課題とされていたが、具体的な検討がされていたのか？ 予約した本の受けとりや返却など限られた対応しかなく、その場で検索もできないなど、委託内容が狭すぎる。司書ではないので市民の質問や要望に応えられず、利用者の不満を聞いています。	図書館カウンター堺東につきまして、令和4年度はPRIに力を入れるべく地道にチラシやポスターを配布・配架いたしました。図書館の主催行事での配布はもちろんのこと、ジョルノ主催のイベントやジョルノ近辺の高校や企業を訪問しチラシやポスターを配布。また、ららぽーと堺にあるまちなか文庫にチラシを配架しています。来年度、効果等について検証したいと考えています。
2	堺区	堺市の図書館内外の貴重な資料の保存・整理やデジタル化に、堺メモリー倶楽部が協力していることも評価していただきたいのですが？	堺メモリー倶楽部の皆様には平素から図書館の運営にご協力いただき、感謝しております。協力団体様の活動につきましては、令和3年度図書館サービス評価のように各サービスの基本方針にかかる取組みのところでお示しする予定です。
3	堺区	Instagramは3月開始とありますが、2023年の3月開始でしょうか。効果検証にある「Instagramは各区から発信することで効率性を高めた」というのは予定のことでしょうか。	2023年3月開始予定です。Twitterは中央図書館でとりまとめて発信していますが、インスタグラムは各館から投稿予定です。
4	堺区	報道提供については、どの様に進めていくのか。	報道提供については、行事について一定の基準を設けるなどルーティン化して積極的に進めていきたいと考えています。
5	堺区	図書館利用案内や音声情報を掲載するとありますが、多言語は何ヶ国語、どの外国語で掲載するのでしょうか？	英語版とやさしいにほんごの利用案内を掲載しました。また、中国語(簡体字版)を準備中です。他の言語についても取り組んでいければと思いますが、まだ目途がたっていません。
6	中区	左の企画について、堺・生物多様性活動団体の協力などをお願いしたのでしょうか？本だけではない、市民の学び合いの場となったでないか…と思います。	今回の企画では堺・生物多様性活動団体の協力はお願いしておりません。堺いきもの情報館・堺生物多様性センター(WEB上の情報サイト)を運営している堺市環境共生課の職員を講師として講座を開催いたしました。
7	中区	普段図書館を利用しない方への案内はどの様にしたのか。	図書館でのポスター掲示、図書館HP、図書館ツイッターのほか、広報さかい、堺子育て応援アプリ、各区役所市政情報コーナーなどで案内をしました。
8	中区	保護者向け講座として「親子で学ぶ!『発見・堺市の自然』知ることから始めよう生物多様性」講座についてですが、参加者の申し込み方法を教えていただけないでしょうか？メール？HP？QR？などなど。	参加申し込みは、電話又は直接館内で受け付けました。

9	中区	横に記載の課題解決支援講座の参加者が、19/40人(定員)と少ないのに、なぜ、②インパクトは「○」にしたのかその理由を知りたい。	課題解決支援講座とともに「認知症パネル展」「介護予防パネル展」「認知症パネル展関連イベント」も含めた一連の「中基幹型包括支援センターなどの協力事業」として評価しました。 中でも、図書館棟1階スペースを使用し出入り自由制で開催した関連イベント「認知症ってなあに？～家族で学ぼう、認知症のこと」は、昨年度の同様の取組では入場者数が伸びず課題としていました。今回、PR対象を子どもまで広げ、時期を検討して実施した結果、子どもを含め一定の集客があったことも評価要素の一つとしました。
10	東区	Twitterの発信目標を具体的に教えてください。	投稿をコンスタントに行い、それが継続するような仕組みを考え実行することを目標としました。ブックフェアは輪番で月ごとに担当が変わりますが、一連の流れに組み込むようマニュアル化し、9月から毎月投稿しています。分館やその他の取組への投稿についても検討中です。
11	東区	「2.関係部局との連携によるブックフェア等の実施」に記載のビジネスパーソンをターゲットにして何か実施したのか？高校生へのフェア等は読み取れます。	ビジネスパーソンをターゲットとしたブックフェアは、すべて図書館単独で行い、関係部局との連携はありませんでした。そのことがわかるように、次年度の課題として記載している箇所に追記しました。
12	東区	「4.堺図書館サポーター倶楽部への活動支援」の「図書館サポーター倶楽部ステップアップ講座」等の募集定員は何人か？実際の参加人数と比較して多いのか少ないのか？	ステップアップ講座は定員20人に対し、19人の申し込みがあり、キャンセルはありませんでした。養成講座は定員6人に対し、6人の申し込みがあり、1人キャンセルがありました。いずれも妥当な定員設定だったと考えます。定員は取組に追記しました。
13	西区	できれば西図書館まつりのチラシを見せていただけないでしょうか？図書館まつりに興味があります。	お渡しします。
14	南区	歴史や文化にふれる機会の充実として、興味がわく体験講座を企画し、小学校にも案内するなどいい取り組みだなと感じます。おたのしみフェアの開催や図書館サポーター倶楽部の運営協力は継続されてきた事業だったのでしょうか？	おたのしみフェアはおはなし、読み聞かせのボランティアに協力いただき、(コロナ禍で実施できなかった時期を除いて)継続して実施しています。南区内の3館(南図書館・榎分館・美木多分館)で同時期にイベントを開催することで、効果的・効率的な広報を行うことができ、区民の図書館活動への関心を高めることにつながっていると思います。また、堺図書館サポーター倶楽部の講座等への運営協力も継続してお願いしております。今後も、地域の知の拠点として知的好奇心を抱いていただけるような行事や講座を企画し、市民の学びの場を提供していきたいと考えています。
15	南区	英語多読資料コーナーの設置。なぜ英語だけなのでしょう？教えてください。	英語については小学校で必修化されたこと、読みやすさのレベル別に多読資料が出版されていることからコーナーを設けました。南図書館では、英語多読資料の他、日本語学習資料のコーナーに日本語多読資料(148点)も設置しています。 そのほか、NPO多言語多読のサイトでは韓国語多読、スペイン語多読の活動が紹介されていることも確認しており、今後も情報収集に努めます。

16	南区	ICTイノベーション推進室とは具体的にどのような取り組みをされているのでしょうか。また、これまで施設利用のオンライン化以外で図書館との取り組みはされているのでしょうか。	ICTイノベーション推進室は、ICTの活用及び導入に係る関係課に対する支援を所管しています。 当館では、施設予約のオンライン化を従前より課題と考え、ICTイノベーション推進室に対して、調書の作成提出、ICT活用ヒアリング等での相談などを継続して行っていたことから、今回の施設予約システムリニューアルに際して参加希望の確認があったものです。導入に際してはシステムヒアリング、設定項目の確認、全庁的な例規改正のとりまとめなどについて協力を得て行っています。 施設オンライン化以外では、令和3年度に学習ルームの空き状況発信についても相談し、導入を検討していた混雑ランプについての情報交換などを行いました。
17	北区	子ども司書を養成し、修了者が継続して活躍し始めていることは素晴らしいと思います。どんな学年の子らが参加し、彼らの感想や意見はどんなものか教えてください。	・9月の活動は小5が4人、小6が2人でした。12月の活動は小4～小6までが1人づつ、中1が2人でした。 ・感想としては、楽しかったという意見が多いです。アンケートをとった12月の活動では内容が難しかったかの質問には「ふつう」が3人、「難しい」が2人。どの作業が楽しかったかについては「ラッピング」2人、「本探し」2人、「絵を描いたこと」が1人。それぞれ違う部分で楽しんでいたようです。 子ども司書の養成や活動は他区の図書館でも取り組んでおり、各サービスの基本方針にかかる取組みのところでも全市的な取組みとしてお示しする予定です。
18	北区	おはなしや読み聞かせを行った小学校はどのようにして選ばれているのでしょうか？	希望校を募集し、北区内で複数あった場合は、希望の日時、過去の訪問状況、学級数を勘案し選定しています。 子ども読書の日記念事業は学校教育部との連携事業であり、全市的な取組みであることから、各サービスの基本方針にかかる取組みでもお示しする予定です。
19	北区	子ども・子育て世代に重点を置いている理由は？ 子ども司書活動のそれぞれの定員は何名でしょうか？	・堺市の中で北区が最も出生数や子育て世代にあたる生産年齢人口が多いことから、子育て支援を重点施策と位置付けています。 ・子ども司書認定者のうち現在活動可能なメンバー9人に対し、参加の可否を尋ねていますので、定員は設けていません。
20	美原区	ティーンズエリア 部活動コーナーの改編と、進路・進学・部活動・名作古典・人権という分け方はよく考えられていると思いますが、利用する中高生らに変化がありましたか？古典名作にはまらない分野もあるのでは？ライトノベルなども人気のようにも思いますが。	分かりにくい書き方で申し訳ありませんでした。ティーンズエリアにはライトノベル等も含め、主に中高生世代に向けた資料を幅広く置いていますが、固有のテーマの資料を分類に依らず特集棚として別置しております。「名作古典」コーナーもその一つとして日本文学・海外文学・古典文学・近現代文学を同じ書架に並べているということです。ご指摘をいただき本文に「特集棚を」という文言を追加しました。

21	美原区	美原中学校の1年生全員を対象とした図書館見学、図書館資料を活用した夏休み宿題支援の効果は。	4クラス136人が2度来館したため、来館者数には良い影響がありました。貸出者数等の詳しい分析は、年齢別の利用統計が年度末の集計になるため次年度の最終報告に追加させていただきます。職員の体感として、中学生の利用が飛躍的に多かったという実感はありませんが、宿題支援は友達グループで来館する生徒が多く、興味があっても自分だけ閲覧したり本を借りたりすることが難しかったのかもしれない。保護者と来館した生徒の中には本を借りて行く子も見かけましたし、夏休み期間中に新たにカードを作った生徒は6人いました。即時的な効果はないかもしれませんが、図書館や資料に対する認識を持ってもらい、今すぐにはなくても今後必要になった際に思い出してもらうことも効果の一つと考えています。
22	美原区	伊東静雄没後 70 年記念事業における図書館 HP や Twitter でも積極的な情報発信を行った。とありますが、TwitterやHPでの具体的な成果を教えてください。	実施した回数等については追記しましたが、具体的な成果はページビューやTwitterのいいねやリツイートの数値、表示回数(概ね400~550回程度)しかわかりません。講演会のアンケートに「何をご覧になって参加しましたか」という項目を入れますので、実施後は数値の形でお示しできる予定です。現在、他の自治体の方からもお問い合わせや参加申込をいただいておりますので、広報さかい以外の媒体で知った方もおられると思われます。
23	美原区	2の内容で「子どもの知識欲を満たす」とありますが、新刊コーナーでこの内容について知りたいと思わせる本がほとんどない。誰がどんな基準で選んでいるのか。除籍の基準も何ですか。	資料の収集は「堺市立図書館資料選定基準」、除籍は「堺市立図書館資料除籍基準」に基づいておこなっています。 なお、人気のある作家やシリーズの新刊は図書館に入った時点で既に予約が付いているものも多く、新刊棚に並ばないことがあります。また当館の新刊棚は入ってすぐの場所にあり、来館するとまずそこをチェックする利用者がたくさんおられます。そのため並べてすぐに貸出に出るケースも多く、新刊棚にある本の冊数やバリエーションが少なくご不便をおかけすることもあるかと思ひます。 新しい児童書の紹介については、当館だけではなく市内全館に入った本から選んだおすすめ本の冊子「ほら、このほんおもしろかったよ」「ページをめくれば」等の発行・配布や、HP・SNSでの資料紹介など多角的に取り組んでいます。
24	全体	図書館を利用していない人を含め、図書館への期待や要望、評価、利用の実態などの調査の計画は？	図書館の再整備につきまして、図書館の基本的な業務を充実することに加え、社会情勢や市民ニーズの変化に柔軟に対応する必要があります。庁内の連携はもちろんのこと、市民の皆様の意見を伺いながら再整備を進めていきたいと考えています。その中で必要に応じてサービスの検証・見直しや調査を行う予定です。
25	全体	学校図書館の抜本的な充実・支援・自動車文庫についての検証は？	
26	全体	堺市広報11月号には、表紙に「知りたいこと」がこの中に 知の宝庫、図書館へ行こうとあり、特集ページにはレファレンスを中心に図書館が見開きで大きく紹介されていた。その効果や反響があったのかを知りたい。	広報掲載の11月のレファレンス件数について、前月から161件増加(中央図書館部全体)し、令和4年度下半期として最多となりました。また、当月の新規登録者は、臨時休館などの影響のない7月以降で唯一前年度よりも多く、前年度比106%。市民からもカウンターや電話などで意見をいただきました。

各区図書館の取組み状況(案)への評価まとめ

1	堺区	p.2 Twitterの毎日更新は大変だったでしょうが、更新頻度が高い方が効果があるので継続していただきたいです。広報媒体をウェブに広げつつあることをPR出来て良いと思います。
2	堺区	p.2 行政資料の電子化を電子図書館へ組み入れていく仕組みの構築は今後の図書館の役割として重要です。適切な評価指標を設定していると思いますので、最初は大変ですが、少しずつ着実に進めて行くことができるよう重点を置いていただきたいと思います。
3	堺区	P4~5 高校との連携をより広めることが重要だと思います。次のR5年度の評価指標は連携を重視したものに変わっても良いと思いました。
4	堺区	インスタグラムによる情報発信等新たな広報手段はよいかとおもいます。
5	堺区	図書館の問題ではなく堺市全体の問題だが、外国人向けのホームページはまだ改善の余地あり。日本語と公平なホームページの作りではなく図書館のホームページにたどりつきにくい。
6	中区	全体的に複合施設を活かした連携が進み、活発に事業を実施していることが分かる内容でした。課題設定も事業の振り返りから適切に改善事項を抽出していて、今後の発展が見込まれると感じられました。
7	中区	私も中区はプラネタリウムを大切にしてほしいとおもいます。
8	西区	効果検証の①妥当性 に 市民を巻き込んだ環境改善で[育む力]の貢献という表現は、「市民との共同」の視点からのずれを感じます。図書館や司書が主体性をもって事業をすすめることと、図書館の充実発展を願う市民が主体的にかかわり協力連携する立場が大切だと思います。市民は巻き込まれて動くばかりではないですから。
9	南区	他の区とは違う特徴的なコレクションの構築や子ども向け体験講座でのユニークな講座やICTへの取組みなど、意欲的な取り組みが分かりやすく書かれていて良いと思います。
10	南区	南図書館ホールの Web 申込および集会室の 空き状況公開を3月末より開始する予定。これはとても便利なサービスだとおもいます。
11	北区	子ども司書の認定者が活躍できる場を提供し、同年代の子どもたちの読書振興につなげたりと発展している様子が分かりました。
12	北区	子ども司書養成講座の実施。子ども司書活動を 2 年、3 年と継続して参加してもらうことで、より読書、図書館に関する知識がつくことが期待できる。素晴らしい講座だとおもいます。
13	北区	子ども司書養成講座については、以前より良い取組だと感心していたが、その認定者による「子ども司書活動」は、本当に素晴らしい取組だと思う。課題・改善提案にも書かれているが、初級・中級・上級といったレベルを設定し、そのレベルに合った魅力あるプログラムの実現を期待します。
14	北区	洋書絵本の拡張は、多様性の時代と言われる今の社会のニーズに合った取組であると評価する。
15	北区	非来館イベントも、コロナ禍を通してとても充実している。メディアミックス原作や日本の名著、テーマを決めた「おすすめ本」の投票など、とても興味深い。ただ、どんな結果が見ようと堺市図書館のホームページを探したが、見つけれなかった。非来館イベントへの簡単なアクセスを期待する。

16	北区	Twitterにより情報発信や保健センターと連携したブックフェアは、以前より子育て世代へのアプローチとして良い取組だと思っていた。貸出冊数を見ても成果が出ているので、ぜひ継続発展していただきたい。学校図書館も同じだが、まず来館経験0を1にすることが重要で、1があれば10や100につながると考える。
17	北区	P26～27 市の電子申請システムを利用した取組みでしたが、個人情報などを取得する必要があるならば、青少年を対象とした場合、もっと投票してもらいやすいメディア(SNSなど)だと投票が増えるのかもしれないですね。
18	全体	レファレンス件数のカウントは大切なことですが、内容やレベルはずいぶん違うと思います。テーマを持ってお願いに来る人への対応がていねいになされることを願うとともに、レファレンス以前の市民との交流を大事にしていいただければと思います。カウンターでの交流や会話から市民のニーズに気づき、選書や図書館のイベント企画のアイデアも生まれるのではないのでしょうか。
19	全体	表の〔来館者数(来館回数)〕は以前は“区民千人当たり”であったが、“一人当たり”にしたことで、とても見やすくなった。全体的に来館者が前年より増えていることが一目でわかる。